

三新田神社 1

祭神天照皇大神・誉田別命・宇加魂命・大宮姫命・猿田彦命。元和年間(1615~24)上木作村の福士勘左衛門が八幡宮を建立、延宝年間(1673~81)4代藩主津軽信政が勧請した神明宮を、後に新田奉行一町田権之進が現在地へ移転、正徳3年(1713)稲荷宮も勧請されました。これらをあわせて三社宮と称し、広須新田・金木新田・俄元新田の祈願所としました。明治28年(1895)現社名に改称しました。



木作代官所跡・御飯屋 (銀杏ヶ丘公園) 2

広須組・木造新田の代官所跡、ならびに藩主巡行の際の休憩所・宿泊所である御飯屋跡。旧制木造中学校跡地の一角に位置します。周囲に土塁や堀を巡らし、米蔵・郷組蔵・蔵長屋などの施設もあったとされます。代官所には、代官2名ほか手代7名・小使7名が配置されていました。藩主御手植え伝承のある公孫樹と千代の松が、往時の面影を今に伝えます。

■千代の松

木作代官所跡にあるクロマツ。樹齢310年・樹高13.5m・幹周245cm。貞享元年(1684)代官所内の御飯屋(飯館)落成を記念して、4代藩主津軽信政がイチョウとともに自ら植えたものとされ、つがる市天然記念物に指定されています。

■公孫樹

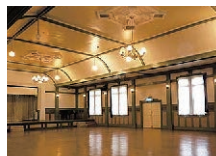
木作代官所跡にあるイチョウ。樹齢310年・樹高22m・幹周660cm。貞享元年(1684)代官所内の御飯屋(飯館)落成を記念して、4代藩主津軽信政がクロマツとともに自



ら植えたものとされ、つがる市天然記念物に指定されています。

旧制木造中学校講堂 3

昭和4年(1929)建造。木造モルタル造りの洋風建築。外観は簡素ですが、内部はシャンテリア基部に装飾を施すなど豪華なつくりとなっています。現在は中央公民館の付属施設として活用されています。



縄文住居展示資料館(カルコ) 4

昭和62年(1987)開館。館内に縄文時代晩期の竪穴住居が復元され、縄文人口ボットが当時の言葉で、縄文の暮らしを紹介しています。国重要文化財「遮光器土偶」レプリカをはじめ、旧木造地域から出土した考古資料が多数展示されています。開館時間 9:00~16:00/休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始/観覧料 大人200円、高・大学生100円、小・中学生50円/TEL0173-42-6490

旧高谷銀行本店 5

大正初期、木造村の大地主高谷家が建てた重厚な洋風建築。金属板葺木造二階建てで、設計施工は国重要文化財「旧第五十九銀行本店本館」(弘前)建築でも知られる堀江組が担当しました。



法澎山慶応寺 6

真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。天和元年(1681)釈受西が来生寺念仏道場として木作村に開基。元禄14年(1701)現寺号を称しましたが、当初は法誓山と号し、文久年間(1861~64)法澎山に改めたとも伝えられます。元和元年(1615)受西が創建、あるいは延宝2年(1674)祐閑開基とする説

もあります。

鶴遊山西教寺 7

大真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。元禄2年(1689)越前国浄願寺より木作村にきた玄入草創、あるいは元禄5年(1692)冷意が草創と伝えられます。元禄14年(1701)現寺号を公称しました。

法光山実相寺 8

日蓮宗寺院。本尊一塔両尊。津軽為信に討たれた飯詰高楯城主朝日行安の後室お妙の方が慶長2年(1597)下古川村(つがる市柏)に法華庵創立、玄和日道開基と伝えられます。元禄2年(1689)讃岐国実相院日成が木作村に移転開山、元禄14年(1701)弘前本行寺より現山寺号を許されました。安政2年(1855)焼失しましたが、翌年再建され現在に至ります。境内には、木造新田地方で広く信仰される水虎様も祀られています。

下相野観音堂(高城八幡宮) 9

津軽三十三観音第11番札所。本尊如意輪観音。延宝3年(1675)下相野村(つがる市森田)盛作右衛門が観音堂創建と伝えられます。安政2年(1855)飛竜大権現を祀る飛竜宮に改称、明治4年(1871)神仏分離により、誉田別尊・高皇産靈神を祭神とする高城八幡宮を分立しました。観音堂社は破壊されましたが、本尊如意輪観音は後に高城八幡宮に合祀されました。

「藤の木」三本 10

尊殿堂そばにあるフジ。推定樹齢425・樹高10.0m・幹周200cm。天正年間(1573~92)新田地方視察中に亡くなった愛馬を弔うため、津軽為信が地中に建てた藤の鞭が根付いたものと伝えられ、つがる市天然記念物に指定されています。

広須山長福寺 11

浄土宗寺院。本尊阿彌陀如来。天正6年(1578)広須村(つがる市柏)に念夢開山、あるいは寛永19年(1642)以前に良求開山とも伝えられます。貞享4年(1687)下中野村(つがる市柏)に移転、二度の火災に遭うも安永7年(1778)再建とされます。

柏正八幡宮 12

祭神誉田別尊。天正5年(1577)工藤先左衛門が領内巡検中の津軽為信の許しを得て、広須に建立したと伝えられます。当初広須八幡宮と称されていましたが、寛文8年(1668)川端村(現在地)へ移転し川端八幡宮と改称、広須・木造両組の鎮守として崇敬されました。さらに柏村の成立に伴って明治42年(1909)柏正八幡宮と改称し、現在に至っています。

廣大山浄円寺 13

浄土宗寺院。本尊阿彌陀如来。承応元年(1652)桑野木田村(つがる市柏)に一法庵の鶴伝開山、明暦元年(1655)現在地へ移転、あるいは元和元年(1615)良乗開山とも伝えられます。嘉永5年(1852)焼失、安政4年(1857)再建されました。

法竜山最勝寺 14

真宗大谷派寺院。本尊阿彌陀如来。寛文11年(1671)桑野木田村(つがる市柏)に道甫が開山しました。元禄4年(1691)自省創立、あるいは享保4年(1719)下古川村(つがる市柏)法華寺が移転、且竜建立とする説もあります。

日本最古のりんごの木 15

明治11年(1878)古坂乙吉が、りんごの先覚者菊池三郎(弘前)より入手した苗木をもとに栽培した日本最古のりんご樹。樹齢115年・樹高7.4m・幹周300cm。20aの園地に当初栽培した樹のうち、紅紋2本・祝1本の3本が現存し、毎年約7000個に上るりんごを実らせています。



大巻渡 16

岩木川中流部、大巻村(鶴田)と対岸の桑野木田村(つがる市柏)を結ぶ渡場。明治13年(1880)の記録では、幅75間(136m)・馬船1艘となっています。戦後直後まで利用されました。